

Sports Net

ちば 2024年1月号

New Japan Sports Federation in Chiba Prefecture

2024年1月15日

「スポーツは平和とともに」

新日本スポーツ連盟千葉県連盟

〒263-0024 千葉市稲毛区穴川3-1-17

Tel 043-287-7353 Fax 043-256-1454

URL <http://njsf-chiba.perma.jp>

E-mail njsf1970chiba@gmail.com

発行人 園川 峰紀

通巻 257号

新たな峰を目指しましょう！

2024年を迎え県連盟会員の皆さんに新年の挨拶をお届けします

2020年の年明け以降、3年余に及ぶコロナ渦の中、活動停止を余儀なくされた時期もありましたが、昨年5月2類から5類に移行された措置に伴いいつもの日常が戻ってきました。

私たち県連盟活動の中心である各種目協議会の中でも、テニス、卓球等の個人競技部門では地道な大会継続開催が大幅な会員増に繋がったり、ランニング関係では長年開催してきた陸上競技大会の継続は叶わなくなったものの、最盛期には2000人を超えるランナー・観客が集まった「青葉の森・リレーマラソン」の従来規模での開催実現、10年以上継続してきた「反核・平和マラソン」の復活開催、スキー関係では新規に立ち上げ県連盟に加盟されたチームの存在、空手関係では2年ぶりの復活開催にこぎつける等明るい材料がありました。一方、野球・バレーボール（ミックスバレーを含む）・サッカーなどの団体競技では会場確保の課題もありましたが、コロナ渦の中で活動が十分できなかったこともあり大会参加チームがなかなか増えない現状があります。

千葉県連盟は、2020年に創立以来50周年を迎え関係者が一堂に集まったの記念事業を計画するもコロナ渦の中、この計画を断念し記念誌発行に切り替えました。予定より大幅に遅れましたが2022年7月に発行にこぎつけ会員の皆さんを始め関係先に配布する等を行い、併せて事務局体制も新体制に切り替え次の50年に向け新たなスタートを切りました。

地球沸騰化に象徴される気候変動の影響、少子高齢化の進行、公共スポーツ施設の減少、

福祉予算の削減、長時間労働、なかなか上がらない賃金、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザ侵攻等に象徴される平和が脅かされる等、私たちが目指している「いつでも、どこでも、だれでもスポーツを」「スポーツは平和とともに」等スポーツを行う環境整備にはまだまだ解決すべき課題がありますが、新たな峰を目指し2024年を乗り切りましょう！



能登半島地震被害への義援金のお願い

1月1日に石川県能登地方で発生した地震により、各地で人的被害、家屋倒壊などの大きな被害が出ています。被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。新日本スポーツ連盟関係では、現在、各会員の状況を情報収集しているところです。

今回の地震で被災された会員の方々をはじめ、すべての被災された方々への義援金を呼びかけます。

お寄せいただいた義援金は、被災された会員への復興支援、または自治体による義援金（石川県「令和6年能登半島地震に係る災害義援金」など）に活用します。「日常生活」を早く取り戻せるよう、多くのみなさまのご協力をよろしく願いいたします。

〈送金先〉郵便振替＝口座番号 00110-1-56939 名義・新日本スポーツ連盟 ※「能登半島地震 義援金」と明記ください

260名余のアスリートがアップダウンコースに挑戦 検見川クロスカントリーレース

2023年12月10日（日）東京大学検見川総合グラウンドにてクロスカントリー大会が開催されました。

会場の検見川グラウンドは前回の東京オリンピックではホッケーやクロスカントリー大会の会場になった所。以来オリンピック候補選手のトレーニング会場になったこともある由緒あるグラウンドです。



縄文や弥生時代に咲いていた蓮の種を大賀博士が見つけた沼もあります。千葉公園で咲いている大きな蓮の花は「大賀蓮」と言われ有名です。

レースは10kmと5kmに分かれ、それぞれ10km A35歳以下。B40歳代。C50歳代。D60歳代。E女子の部。5kmはF35歳以下 G40～50歳代H60歳代。I女子の部で行われます。

今年は10kmに183名、5kmに81名と264名のエントリーがありました。

参加者の地域は千葉が155名と約6割、東京、神奈川、埼玉、茨城と続き、北海道からも藤原純さんがCランクに、Aランクの息子さんの海さんと共に参加しました。

10時スターター小高晶子さんのピストルの合図で5km80名が元気にスタートしました。続いて10時15分に10kmの部180名が先を争ってスタートしました。



5kmは周回コースを2周しますが、スタート後の15分には最終の丘から駆け下りて来る選手が見え始め、Gランク45歳国立競技場競走部の窪寺義幸選手が18分6分でゴール。35歳以下のFランクの選手を振り切り総合優勝しました。

10時45分過ぎには10kmの選手も最終の丘から駆け下りる姿が見え始め、39歳流山CJ比佐学選手が35分21秒でゴールしました。

比佐選手のタイムは昨年優勝の中倉幸陽選手よりも1分18秒も早いタイムでした。

好天に恵まれどの選手も気持ちよく走れた様で給水所は大いに繁盛！主任の柄沢正水さん、スターターも兼任の小高さんもニコニコ顔でした。



今年はセミナーハウスの支配人阿部さんの配慮でハウス内に更衣室を設置して下さり、選手も気兼ねなく着替える事ができました。

今年の参加者数より約50名少なくなっていることから来年の参加者をどうしたら増やせるかが課題となりました。

（千葉ランニングクラブ 金子泰夫）

年明けを飾るミックスダブルス卓球大会開催 ～～105組／210名の参加～～

2024年の年明け早々、1月6日（日）YohaSアリーナ（千葉公園総合体育館）でミックスダブルス卓球大会（主催：千葉県卓球協議会）が15組210名余の参加で開催されました。



会場となるYohaSアリーナは、昨年(2023年)4月に供用を開始したばかりの新しい体育館ですが、新スポ連としては初めて利用する施設。天井も高く、照明も申し分なく、施設内のあらゆる設備も従来の公園体育館とは比べ物にならないくらい素晴らしいものばかり。ただ、施設が新しいこともありいろいろと制約も・・・その中でも館内利用にあたって、2階の観覧席や、アリーナの出入りは必ず上履きの利用が必要などいささか過敏に過ぎるのではないかと感じました。

役員さんたちも新しい施設ということも手伝い、準備にあたふ

た。予定より若干早めの9時15分頃



に開会式。園川県連盟理事長の挨拶、石原審判長諸注意等を経て9時半にキックオフ。

会場いっぱい（合計22台）に並んだ卓球台では参加105組の選手たちが一斉に小さい球に命を吹き込む熱戦が始まりました。

そんな中、一際小柄な選手が目につきました。聞けば卓球を始めてまだ2年目という御年9歳の福島琴音選手。新スポ連の卓球大会は初めての参加ですが、千葉県内の大会にはお父さん（福島和也選手）とのペアで参加、ソコソコの成績



を勝ち取っているとの事。

親子鷹の一面と一所懸命白球を追ったり、審判の立ち姿を見ると今後の活躍

が楽しみな選手との遭遇でした。

大会は午後5時以降の利用予定団体もあることから、午後

4時半ころには終了しなければならないというかなり忙しい運営となりましたが、



参加選手や役員の前張りもあり無事予定時間ぎりぎり終了することが出来ました。

なお、各ブロック優勝は次のとおりです。

- A-1ブロック：小宮翔斗・小宮美紀 ペア
- A-2ブロック：倉持和輝・大塚心虹 ペア
- A-3ブロック：田村拓己・大平蒼梨 ペア
- B-1ブロック：松本健次・福島清美 ペア
- B-2ブロック：小倉一晃・増田由美子 ペア
- B-3ブロック：田尾裕典・徳永真美 ペア
- B-4ブロック：後藤雄司・佐藤かおる ペア
- B-5ブロック：田中富夫・鈴木信子 ペア
- B・Cブロック：児玉順一・里見アヤ子 ペア
- C-1ブロック：緑川克己・鈴木利子 ペア
- C-2ブロック：高橋真一・名嘉真美鶴 ペア
- C-3ブロック：椋 郁雄・山田寿美子 ペア
- C・Dブロック：開田 孝・開田悦子 ペア
- D-1ブロック：神崎直子・青木昌代 ペア
- D-2ブロック：恩田敏之・田中慶子 ペア

理事会報告

12月22日(金)第8回となる常任理事会を穴川コミュニティセンターで開催しました。

師走の慌ただしい時期のため、いつもよりは若干少ない参加での会議となりました。

【経過報告関係】

ランニングクラブ：12/10検見川クロスカントリー大会を開催。

260余名が参加。

スキー協議会：11月18日に習志野市市民プラザで学習会を開催。21名が参加しました。

動画等を活用し昨年より多くの参加者がありました。

卓球協議会：11月15日(水)と12月13日(水)に天台のスポーツ科学センターアリーナで下川卓球塾の下川裕平氏を講師としてお招きした講習会には2日50人以上が参加。

千葉県・千葉市に対し、スポーツ施設・予算増額の要請書を提出しました。

【協議検討事項】

○第52回定期総会について

- ・代議員の確保を各協議会に依頼する
- ・総会議案作成の担当決め
- ・役員改選に向け次期役員の選任を各協議会に依頼する

○2024年度の各大会会場の確保について

- ・千葉県、千葉市の施設行事調整会議に向けて計画書を作成し提出する
- ・各協議会毎に提出する分も県連盟に集約を
- ・千葉市の体育館についてはミックスマレー、バレー、卓球協の希望日を調整の上提出する

○全国連盟評議員会に向けて

○全国連盟への分担金の基礎となる12月末時点での現勢を全国連盟に報告する

○全国連盟総会(3月)に向け代議員の選出を

○募金を寄せて頂いた皆さんへのお礼状について

○SportsNetちば1月号の掲載記事について

ました。

○ 今まで野球協に参加した経験のあるチームや秋の選抜野球大会に参加したチームなどに積極的に勧誘を務める。

○ 審判員や役員養成についても各チームに対して働きかけを継続して行う。

○ グランド獲得についても大きな課題と認識している。

○ 課題や問題解決については役員会を定期的に実施する。その他課題があれば3月から10月にかけて行う定期代表者会議でその都度話し合っって対応して行く。

等など。

各チームの選手、代表者、役員が事態をこのように前向きに考え、行動していけば、今年も最後には良き野球協を作り上げていけると確信しています。

いろいろ課題はありますがやはり「スポーツって最高!」と思う今年の私の「初夢」でした。

(千葉県野球協・県連盟理事 三上)

スポーツアラカルト

スポーツって最高

スポーツは心技体が揃って最高のパフォーマンスが出来ると思います。しかしながら、年齢と共に衰えていく部分も沢山ありますが、自分自身の意思で最高に持っていく可能性を秘めていると思います。

千葉県野球協議会(以下「野球協」)も昨年末役員が集まり、2023年度を振り返り喧々諤々の意見交換を行い、来る2024年の野球協の発展と役員の健康を祈念して打ち上げを行いました。

今年も2月には各球場の調整が始まり、3月には審判講習会を実施し開幕を迎えることとなります。明るい話題として、今年も審判員に若手が一人、役員も若手2名増員があります。

しかしながら、懸念事項もあります。その一つが野球協への参加チームの減少。現時点で分かっているだけでも複数のチームが不参加を表明しています。そこで野球協として以下の現状認識と方針を確認し

クラブ紹介

aenergy (アエナジー)

ミックスバレーボール

- ①クラブ(チーム)名 aenergy
- ②代表者 加藤 威冨
- ③チームの連絡先(連絡希望の方は県連盟事務所)
- ④チームの概要

(名前の由来・チームの特徴・練習日程・人数等)

<名前の由来>

k-popアイドル(aespa)の「aenergy」という曲が由来です。

チームの発足を決めた際に代表・副代表で決めました。

色々な曲名が候補にありましたが、この曲は、個々の能力を持って戦う内容になっていたことから、energy(元気・活力)とも掛かっておりチーム名にしました。



<チームの特徴>

私たちのチームは、前に所属していたチームで出会ったメンバーから波及し、身内だけで構成しているチームです。

そんな当チームの強みはメンバー全員の武器がサーブであることです。

威力だけでなく、強弱をつけたり、コースを狙ったり、と多種多様なサーブで攻めます。

<練習日程等>

毎週土日に練習日を設けています。しかし、なかなか練習には人数が集まらず、試合形式等

のチーム練習ができないのが悩みです。



<登録人数等>

現在の登録人数は、約15名で、男女比は5:5くらいです。

チームとしては発足したばかりですが、身内で構成していることからメンバーの募集予定はありません。

⑤クラブのアピール(2023年度の抱負等)



まだチームとしては未熟ですが、他のチームと同等に戦えるようなチームになれるよう、頑張っていきたいです。

⑥ スポーツ連盟への希望など

特に希望はありませんが、貴連盟が開催されている大会等にも参加できるように、メンバーとの日程調整を積極的に行っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(文責 園川)

クラブ紹介をしてくださるチーム
を募集します

インタビューを中心に原稿化しますので、
ご自身で書くことはありません。

県連盟事務所にご連絡下さい。

SPORTS CALENDAR

1月

- 1月 6日(土) ミックスダブルス卓球大会(千葉公園体育館)
テニスシニア第54回370チーム対抗戦男子
- 1月 8日(月・祝) 冬季卓球大会(千葉公園総合体育館)
- 1月13日(土) テニスシニア第54回370チーム対抗戦女子
- 1月16日(火) 関東ブロック交流ウォーキング
- 1月20日(土) テニス第42回春季大会男子S 稲毛海浜
スキー指導員研修会
- 1月21日(日) mixバレーボール新春大会 磯辺SC体育館
- 1月27日(土) テニス新春大会チーム対抗 稲毛海浜
- 1月28日(日) テニス新春大会チーム対抗 稲毛海浜
- 1月19日(金) 常任理事会

2月

- 2月 3日(土) 千葉県行事調整会議
- 2月 6日(火) 卓球協議会運営委員会
- 2月10日(土) 千葉市施設利用調整会議
- 2月10日～13日 千葉県スキー祭典
- 2月12日(月・祝) テニス第42回春季大会男子S55以上、女子S
- 2月17日(土) 千葉市施設利用調整会議
- 2月18日(日) 男子D3ペアチーム対抗
- 2月10日(土) 全国連盟評議員会
- 2月16日(金) 常任理事会

地球温暖化、スポーツ界にも波及!?

2023年は地球のあちこちで今までに経験したことがない災害が発生しました。

夏以降12月まで異常なまでの暑さが続いた日本列島。ハワイ・マウイ島の山火事による市内全域の建物の延焼、北米、特にカナダでの大規模な森林火災、北極の温暖化がかってないほど進み氷床の減少が進んでいる事、南米ブラジル・アマゾンでは唯一の交通機関である船が使えないほど川床が干上がり長期間雨が降らないと思えば、同じ南米でもかってないほどの豪雨に見舞われている地域がある事等など、例を挙げればきりがなく、国連のグティレス事務局長は「今や地球温暖化という生易しいものではなく地球沸騰化である。」と警鐘を鳴らしています。

地球温暖化の最大の原因であるCO2削減に真剣に取り組む必要があるにも関わらず日本政府の態度は相変わらず。CO2排出国としての責任は棚に上げ、再生可能エネルギー開発に背を向けCO2を生み出す石炭火力や原発発電にこだわるその態度からCOP28では2度目の「化石賞」を受賞する事態となっています。

スポーツ界でも温暖化対策が進められています。夏の高校野球では投手の球数制限や試合途中での休憩タイムの設置、Jリーグでは猛暑の下での試合数を減少させる為、2024年度からのシーズン開始時期を8月上旬開幕、翌年5月に閉幕への移行、特に気候変動の影響で雪不足が年々深刻になるスキー競技では地道な対応ですが渡部暁斗選手(ノルディックスキー複合)がCO2削減対策として苗木植樹や地産地消を心がけているといます。

渡部選手は言います「アスリートは競技だけではなく社会に還元できるものがあって初めて成立する。選手一人一人が意識を持っては新しいアスリート像にもなる。一步踏み出すのはすごく勇気がいるが、そのきっかけに自分がなれば」

このように一人では取るにたらない取り組みですが、実行することで少しでも地球温暖化を食い止めることに繋がるのではないのでしょうか？



理事長の独り言